

2017 年度役員候補者一覧

■ 会長		
任期 1 年（非改選 任期 2018 年 3 月まで）		
岩田 洋夫	筑波大学	1957 年東京生まれ。1981 年 東京大学工学部機械工学科卒業，1986 年 東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士)，同年筑波大学構造 工学系助手。現在筑波大学システム情報工学系教授。バーチャルリアリティ，特にハプティックインタフェース，ロコモーションインタフェース，没入 ディスプレイの研究に従事。SIGGRAPH の Emerging Technologies に 1994 年より14年間続けて入選。東京テクノフォーラム・ゴールドメダル賞(1998 年)，文化庁メディア芸術祭優秀賞(2002 年)，文部科学大臣表彰 科学技術賞(2011 年)などを受賞。2013 年より，筑波大学グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラムリーダー。1996 年～2007 年本学会理事。2010 年～2013 年本学会副会長。【2016 年度:会長】
■ 副会長		
任期 2 年（改選 任期 2019 年 3 月まで） * 新任		
池井 寧	首都大学東京	1959 年東京都出身。1988 年東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻博士課程修了(工学博士)1992 年東京都立科学技術大学講師，現在首都大学東京大学院教授。専門はシステム工学，ヒューマンインタフェース，バーチャルリアリティ，ウェアラブル/ユビキタス五感情報インタフェースなど。近年は特に触覚情報提示，記憶支援，超臨場感の研究などに従事。Wearable/Ubiquitous VR 研究委員会委員長，拡張認知インタフェース調査研究委員会委員長。【2016 年度:理事】【副会長新任】
任期 1 年（非改選 任期 2018 年 3 月まで）		
竹村 治雄	大阪大学	1982 年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業，1987 年同大学大学院博士課程単位取得退学。(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)研究員，主任研究員を経て，1994 年 4 月奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。2001 年 4 月大阪大学サイバーメディアセンター教授。2002 年同大学情報科学研究科教授(兼任)。2005 年 8 月同大サイバーメディアセンター副センター長(兼任)，2007 年 8 月同センター長(兼任)，2011 年 8 月同副センター長(2013 年 8 月まで兼任)，2012 年 4 月全学教育推進機構企画開発部長(兼任)および同教育学習支援部門長(2013 年 5 月まで兼任)，2013 年 6 月教育学習支援センター長(2016 年 3 月まで兼任)，現在に至る。工学博士。主として 3 次元ユーザインタフェース，複合現実感，HCI の教育・研究に従事。日本バーチャルリアリティ学会フェロー，ヒューマンインタフェース学会，情報処理学会，電子情報通信学会，IEEE，ACM 各会員。【2016 年度:副会長】
■ 理事		
任期 1 年（非改選 任期 2018 年 3 月まで）		
安藤 英由樹	大阪大学	1974 年生まれ。1999 年愛知工業大学大学院工学研究科修士課程電気電子工学専攻修了，2000 年理化学研究所ジュニア・リサーチ・アソシエイト，2001 年科学技術振興事業団「協調と制御」領域前田研究室研究員，2003 年株式会社エーアイ技術員，2004 年東京大学情報理工学研究科論文博士(情報理工学)取得。2004 年 NTT コミュニケーション科学基礎研究所研究員(RA・RS)を経て，2008 年大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻准教授。人間情報工学を専門とし，錯覚を用いた非言語的インタフェースなどを研究するかたわら，専門領域を題材とした作品制作にも意欲的に取り組む。2008 年文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞，Prix Ars Electronica 2009 ならびに 2011 Interactive Art 部門で Honorary Mention 受賞。【2016 年度:理事】
上岡 玲子	九州大学	九州大学芸術工学研究院 准教授。1997 年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。NTT ヒューマンインタフェース研究所，米国衛星通信会社 PanAmSat に勤務。2003 年東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了。(博士(工学)) 東京大学インテリジェントモデリングラボラトリー，先端科学技術研究センター特任助教，産

		業技術総合研究所サービス工学研究センター産総研特別研究員を経て2012年4月より現職。ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティの研究に従事。近年は、e-テキスタイルによるウェアラブルインタフェース、クロスモーダルな感覚提示によるエモーショナルエンジニアリングなどの研究を行う。本学会では、日本VR学会学会誌編集委員(2012-2014年)(VRメディア評論、特集号「VRと美容」を担当)。VRと超臨場感研究委員会幹事を務める。【2016年度:理事】
北村 喜文	東北大学	1987年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。キヤノン株式会社、ATR通信システム研究所、大阪大学大学院工学研究科/情報科学研究科を経て、2010年から東北大学電気通信研究所教授。博士(工学)。本学会1998~2008年学会誌編集委員, 2003~2008年編集幹事, 2003~2008年, 2012~2015年評議員, 2008~2011年理事, 1999年第4回大会幹事, 1998年~2001年VRにおける計測技術研究委員会委員長。2009年より3次元ユーザインタフェース研究委員会委員長, フェロー。2006年貢献賞, 2007年論文賞を受賞。国際会議JVRC, ICAT, EGVE, IEEE 3DUI, ACM VRST, ACE, ITS, SIGGRAPH AsiaなどでProgram Chair, Symposium/Conference Chair, Steering Committeeなどを務めてきている。IFIP TC-13 日本代表, ACM SIGCHI Conference Management Committee, Asian Development Committeeなどの委員。【2016年度:理事】
串山 久美子	首都大学東京	1982年武蔵野美術大学建築学科卒業, 1984年筑波大学大学院芸術研究科修了, メディア制作を業務とする株式会社グロースを起業, 1992年より武蔵野美術大学, 早稲田大学, 千葉大学非常勤講師, 2005年JST さきがけ研究員デジタルメディア表現領域, 東京農工大学客員教授を経て2006年より首都大学東京システムデザイン研究科教授に就任。国際対抗VRコンテスト(IVRC)審査委員, ICAT委員, 情報処理学会DCON編集委員, インタラクション委員, 映像学会論文委員。専門はインタラクティブアート&デザイン, バーチャルリアリティ, 触視覚ディスプレイの開発と研究。1981年よりメディアアート作品発表, 2000年よりSIGGRAPH Art Gallery, Emerging Technology やArs Electronicaなどに数多く出展。【2016年度:理事】
篠田 裕之	東京大学	1965年神奈川県生まれ。1988年東京大学工学部物理工学科卒。1990年同大学院計数工学修士, 同年より同大学助手, 1995年博士(工学)。同年東京農工大学講師, 1997年同助教教授, 1999年UC Berkeley 客員研究員を経て2001年東京大学情報理工学系研究科助教教授, 2012年同教授, 現在東京大学新領域創成科学研究科教授。触覚インタフェース, バーチャルリアリティ, 触覚センサ・ディスプレイ, センサネットワーク, 二次元通信, 光・音響・生体計測などの教育と研究に従事。2008年~2009年 計測自動制御学会理事, 2013年~2015年IEEE World Haptics Conference Associate Editor-in-Chief, 計測自動制御学会フェロー。【2016年度:理事】
鈴木 陽一	東北大学	会津若松生れ。1976年東北大学工学部電気工学科卒業。81年同工学研究科電気及通信工学専攻博士課程修了(工博)。竹中育英会, RCA David Sarnoff 奨学生。東北大学大型計算機センター助教授等を経て, 99年から電気通信研究所教授。音空間知覚など聴覚情報処理とマルチモーダル感覚情報処理, 3次元聴覚ディスプレイ等の研究に従事。科研費特別推進研究「マルチモーダル感覚情報の時空間統合」代表(07~11年)。日本音響学会会長(05~07年)。超臨場感フォーラム(URCF)会長(12~16年)。現在, 日本VR学会理事, 日本音響学会理事・学術委員長, 日本学術会議連携会員, 日本VR学会フェロー, アメリカ音響学会フェロー, 電子情報通信学会フェロー。主な受賞に日本音響学会佐藤論文賞(92, 94年), FIT 船井ベストペーパー賞(05, 13年), 日本VR学会論文賞(11年), 志田林三郎賞(14年), 文部科学大臣表彰 科学技術賞(16年)著書に聴覚モデル(コロナ社), 音響学入門(コロナ社), 初めて学ぶ GKS(共立出版)など。【2016年度:理事】
谷川 智洋	東京大学	1997年東京大学工学部産業機械工学科卒業。1999年同大学院工学系研究科機械情報工学専攻修士課程修了。2002年同大学博士課程修了。同年通信・放送機構研究員。2004年組織変更により情報通信研究機構研究員。2005年東京大学先端科学技術研究

		センター講師。2006 年同大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻講師，2016 年同特任准教授，現在に至る。イメージ・ベースト・レンダリング，複合現実感に関する研究に従事。多数の展示やスマートフォンアプリを公開するなどデジタルミュージアムやライフログなどの積極的な社会展開も行っている。2006～人工現実感研究会(日本 VR 学会，ヒューマンインタフェース学会，信学会 MVE，映像情報メディア学会 HI 研究会)幹事，2008～香り・味と生体情報研究委員会幹事，2014～同副委員長，2002～2006 ニューズレター委員会委員，2006～論文誌委員会委員，2011～2015 同幹事。【2016 年度:理事】
藤田 欣也	東京農工大学	1983 年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。1988 年同大学院理工学研究科博士課程修了(工学博士)。相模工業大学，東北大学医学部，岩手大学を経て，現在東京農工大学大学院工学研究院先端情報科学部門教授。1996～1997 年アルバータ大学神経科学部門客員研究員。人の知覚特性を利用した力触覚提示と作業支援，オフィス作業者の割り込み許容度推定などの研究に従事。2004～2008 年論文委員。2009～2011 年力触覚の提示と計算研究委員会委員長，2010～2013 年本学会理事。【2016 年度:理事】
任期 2 年 (改選 任期 2019 年 3 月まで) * 再任		
野嶋 琢也	電気通信大学	1998 年東京大学工学部計数工学科卒業。2003 年同大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了。博士(工学)。2003 年航空宇宙技術研究所研究員，組織改編により現在の宇宙航空研究開発機構研究員を経て，2008 年より電気通信大学大学院情報システム学研究科准教授。2016 年より同大情報理工学研究科准教授。現在に至る。2008 年より VR 学会企画委員，2014 年より同論文委員。触覚インタフェース，オーグメンテッドスポーツ，エンタテインメント等の研究に従事。 【2016 年度:理事】【再任】
南澤 孝太	慶應義塾大学	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 准教授。2005 年東京大学工学部計数工学科卒業，2010 年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了，博士(情報理工学)。同年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 特別研究助教，特任講師を経て，2013 年 9 月より現職。JST ACCEL プログラムマネージャー補佐。リアリティメディア研究機構 理事，超人スポーツ協会 理事を兼任。触覚インタフェースを中心に，身体情報学，身体性メディアの研究を行う。【2016 年度:理事】【再任】
吉田 ひさよ	P.I.C.S.	株式会社 P.I.C.S.(ピクス)マーケティング・ディレクター。1993 年 米国・オハイオ州立大学大学院留学。学際研究所 Advanced Computing Center for the Arts & Design(ACCAD)に属し，認知工学，人間工学，CG，VR 等を学びながら研究助手として 3D CG 用インハウスソフトウェアの GUI 設計・デザインに従事。帰国後は日本ヒューレット・パッカード社，クリスティ・デジタル・システムズ日本支社でマーケティングやプリセールス等の業務を担当し，2015 年 10 月より現職。プロジェクションマッピングブームを日本市場に仕掛けるなど，映像関連のビジネス企画立ち上げを得意とする。1998 年～2003 年多摩美術大学グラフィックデザイン学科非常勤講師。日本映像学会会員。海外のメディアアーティスト，CG デザイナー & アニメーター，プロジェクションマッピングディレクター等の講演通訳の経験多数。【2016 年度:理事】【再任】
任期 2 年 (改選 任期 2019 年 3 月まで) * 新任		
両宮 智浩	NTT コミュニケーション科学基礎研究所	2002 年東京大学工学部機械情報工学科卒業，2004 年同大学大学院情報理工学系研究科修士課程修了，同年日本電信電話株式会社入社，NTT コミュニケーション科学基礎研究所勤務。2015 年同研究所 主任研究員(特別研究員)，現在に至る。2014～2015 年ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)認知神経科学研究所客員研究員兼務。博士(情報科学)。触覚特性や身体感覚の錯覚を利用した情報提示インタフェース，障がい者支援の研究に従事。2006 年～2010 年本学会ニューズレター編集委員会，2010 年～2014 年同幹事。2015 年～本学会論文委員。2009 年～ヒューマンインタフェース学会評議員，2013 年～信学会福祉情報工学研究会幹事補佐。2013 年～ヒューマンインタフェース学会論文誌委員会幹事。2015 年～ヒューマンインタフェース学会論文誌委員会幹事。【新

		任】
伊藤 雄一	大阪大学	1998年大阪大学工学部電子工学科卒業。2000年同大学大学院工学研究科博士前期課程修了。2002年同大学院情報科学研究科助手。2008年より大阪大学クリエイティブユニット准教授。博士(情報科学)。専門はヒューマンインタフェース、デバイスメディア、アンビエントコンピューティング、マルチモーダルデバイスなど。近年は特に人の行動取得と行動変容を無意識下を実施する無意識コンピューティングの研究などに従事。本学会ニューズレター編集委員(2008-2012年)、18回年次大会幹事補佐・プログラム委員(2013年)、22回年次大会プログラム委員(2017年)。【新任】
大谷 智子	東京藝術大学	東京藝術大学芸術情報センター 助教。2004年、聖心女子大学大学院文学研究科人間科学専攻博士後期課程満期退学。東京大学大学院情報学環特任助教、東京大学インテリジェントモデリングラボラトリー特任研究員、東北大学電気通信研究所助教を経て、2015年度から現職。2008年に聖心女子大学にて博士号(心理学)取得。人間の色知覚に関する研究や、インタフェースやデジタルコンテンツの心理学的評価を行うとともに、当該分野の一般社会への理解増進事業に従事。近年は、錯視ブロックを用いた二次元平面と三次元立体の対応に関する研究や、マルチモーダル環境下における臨場感・迫真性に関する研究等を行っている。本学会では、日本VR学会学会誌編集委員(2015年～)(VRメディア評論を担当)、情報技術と文化の融合調査研究委員会幹事(2007年～)を務める。【新任】
梶本 裕之	電気通信大学	1998年東京大学工学部計数工学科卒業。2001年同大学大学院計数工学専攻修士修了。同年日本学術振興会特別研究員(東京大学大学院情報理工学系研究科)、2003年東京大学大学院情報理工学系研究科助手、2006年電気通信大学人間コミュニケーション学科助教、2007年同准教授、2010年電気通信大学総合情報学専攻准教授、現在に至る。博士(情報理工学)。2010年よりVR学会論文誌委員会幹事。主に触覚インタフェース、情動インタフェース等の研究に従事。2012～2015年本学会理事。【新任】
清川 清	大阪大学	1994年大阪大学基礎工学部情報工学科三年次中途退学。1996年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。1998年同博士後期課程修了。1998年日本学術振興会特別研究員。1999年郵政省通信総合研究所(現・情報通信研究機構)研究官。2001年ワシントン大学ヒューマンインタフェーステクノロジー研究所客員研究員。2002年大阪大学サイバーメディアセンター助教授。2007年同准教授。現在に至る。博士(工学)。2002年Elsevier Computer & Graphics Best Paper Award, 2002年情報化月間推進会議議長表彰, 2006年本学会貢献賞, 2011年ICAT 2011 Best Paper Award等受賞。本学会では、学会誌委員, 論文誌委員, 企画委員(現顧問), 情報システム委員, ICAT運営委員, 広報・出版委員, アジアグラフ運営委員, 10周年記念委員, 3次元ユーザインタフェース研究委員会委員(現幹事), 複合現実感研究委員会委員(現委員長), 第18回大会幹事などを務める。IEEE 3DUI Symposium Co-Chair (2008~2010), ACM VRST Program Co-Chair (2009), IEEE ISMAR Program Co-Chair (2012, 2013), IEEE VR Program Co-Chair (2012, 2014)等を務める。拡張現実感, 複合現実感, 3次元ユーザインタフェース, ウェアラブルコンピュータ, コンピュータビジョン, 協調作業などの研究に従事。【新任】
森山 朋絵	東京都現代美術館	東京都現代美術館学芸員(企画係主任)。1996年よりVR学会に参加, 評議員, VR文化フォーラム/ASIAGRAPH担当等を務める。1989年筑波大学大学院博士課程前期修了, 後期退学。在学中より学芸員として東京都写真美術館・映像展示室の創立に携わり, 国内外で約50本のメディアアート展を企画, 2007年より現職。2005-2010年まで東京大学大学院情報学環特任准教授, 2000年から現在まで早稲田大学(文学部, 国際情報通信研究科, 表現工学科)のほか, 慶應義塾大学, 東京藝術大学, 独バウハウス大学, UCLA他で教鞭を執る。2003年に文化庁在外派遣研究員として独ZKM, 米MITメディアラボに滞在, J.P. Getty研究所コンサルティングキュレーター, アルスエレクトロニカ・グランプリ審査員, 文化庁メディア芸術祭審査員, SIGGRAPH Asia2008(シンガポール)にて日本人初のArt

		Gallery／Emerging Technologies 議長, NHK日本賞審査員などを歴任。文化審議会専門部会委員などの活動を通して, メディア芸術拠点としての公立文化施設の成立と展開, テクノロジーと芸術の協働や展示支援をテーマに研究と実践を行う。主な企画展に「映像体験ミュージアム」「文学の触覚」「名和晃平ーシンセシス」「吉岡徳仁ークリスタライズ」「ミッション[宇宙×芸術]」, 文化庁メディア芸術祭海外展(リンツ市), 同愛知展(旧「愛・地球博」会場)。主な著作に『映像体験ミュージアム』(共著・監修, 工作舎), 『絵コンテの宇宙』(監修, 美術出版社), 『Meta-Visual(French Edition)』(共著・監修)など。【新任】
■ 監事		
任期1年(非改選 任期2017年3月まで)		
伊福部 達	東京大学	1971年北海道大学大学院修士課程(電子工学)修了。1984年米国スタンフォード大学・客員助教授, 1989年北大・応用電気研究所(現:電子科学研究所)・教授, 2002年東京大学先端科学技術研究センター・教授。北大名誉教授, 東大名誉教授。2011年より高齢社会総合研究機構・特任研究員。工学博士。電子情報通信学会フェロー, VR学会フェロー, 中山賞大賞「工学技術の医療福祉への応用」(2012), 音の匠顕彰「緊急地震速報チャイム音の作成」(日本オーディオ協会, 2012), 北海道新聞文化賞(2014) 主な著書に「音の福祉工学」(コロナ社, 1997), 「福祉工学の挑戦」(中公新書, 2004), 「ゴジラ音楽と緊急地震速報」(監修, ヤマハミュージックメディア, 2012), 「福祉工学への招待」(ミネルヴァ書房, 2014), 「福祉工学の基礎」(コロナ社, 2016)。1997-2000年, 2006-2008年本学会理事。2001年本学会副会長。2012-2013年本学会会長。【2016年度:監事】
任期2年(改選 任期2018年3月まで) *再任		
廣瀬 通孝	東京大学	1954年鎌倉生まれ。1977年東京大学工学部産業機械工学科卒, 1982年東京大学大学院博士課程修了, 工学博士。同大学工学部専任講師, 1983年同助教授, 1999年東京大学先端科学技術研究センター教授を経て, 2006年東京大学大学院情報理工学系研究科教授。専門は, システム工学, ヒューマン・インタフェース, バーチャル・リアリティ。通信・放送機構 MVL/SVR プロジェクト プロジェクトリーダー, 超臨場感コミュニケーションフォーラム(URCF)会長。産業技術総合研究所特別顧問, 情報通信研究機構 プログラムコーディネータなどを務める。日本学術会議連携会員, 日本VR学会フェロー。情報化月間推進会議議長表彰, 東京テクノフォーラム・ゴールドメダル賞, 大川出版賞などを受賞。主な著書「バーチャル・リアリティ」(著)産業図書(平成5年), 「空間型コンピュータ」(著)岩波書店(平成14年), 「ヒトと機械のあいだ」(著)岩波書店(平成19年)。1996-2006年本学会理事。2008-2009年本学会副会長。2010-2011年本学会会長。【2016年度:監事】